

H24 年度 宮城県リスクコミュニケーションモデル事業 議事録

【トヨタ自動車東日本株式会社 宮城大衡工場】

【開会あいさつ】

○環境対策課 泉澤技術副参事

宮城県リスクコミュニケーションモデル事業の開催に当たりまして、本来であれば環境対策課長があいさつすべきところではありますが、急な用事のために申し訳ございませんが欠席とさせていただきます。よって僭越ではございますが私のほうから御挨拶を申し上げます。

本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

はじめに、本モデル事業の開催に当たり、会場設営や関係者との調整などに御尽力いただきました、大衡村行政区長の皆様、大衡村職員の皆様、ファシリテーターの有田様、化学物質アドバイザーの菊地様、本モデル事業の開催を快くお引き受けいただきましたトヨタ自動車東日本株式会社宮城大衡工場の工場長様はじめ御協力いただきました多くの方々に、厚くお礼申し上げます。

また、本日お忙しい中、傍聴に御参加いただきました地区住民の皆様及び関係事業者の皆様にも厚くお礼申し上げます。

さて、本県におきましては、事業者における化学物質の管理について、排出量・移動量の把握など適正な管理を推進しているところであります。

しかしながら、さらなる管理の改善の促進のためには、地域にお住まいの皆様、事業者、行政など地域を構成するすべての主体が、化学物質のリスクに関する正確な情報を共有し、意思疎通と相互理解を図っていく「リスクコミュニケーション」が効果的な役割を果たすものと考えております。

その一環として、本日は、トヨタ自動車東日本株式会社宮城大衡工場において、地域の代表の方々に御参加いただき、化学物質に係るモデル的なリスクコミュニケーションを開催することとなりました。このモデル事業にお集まりいただいた皆様には、この機会に、リスクコミュニケーションに関する理解を深めていただき、それぞれの地域にお持ち帰り、新たなタネをまいていただければと思います。また、県では今後も、県内各地域でリスクコミュニケーションの取組みが実施されるよう普及して参りますので、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

以上、簡単ではありますが、あいさつとさせていただきます。

○トヨタ自動車東日本株式会社宮城大衡工場 吉田工場長

宮城大衡工場の工場長をやっております吉田でございます。よろしく申し上げます。

今日は平成 24 年度宮城県リスクコミュニケーションモデル事業ということで、まずは会場会社を提供させていただくことを改めて感謝申し上げます。

この工場でのいろいろな取組みをこの後少し御紹介をして、皆さんにも現地を見ていただいて、いろいろな御意見があればまた聞かせていただければと思います。この工場を作った時、コンパクト、フレキシブル、ハーモニーのコンセプトで、この工場をセントラル自動車の時から作り始めました。昨年皆様御存知のように、三つの会社が一つの会社になりまして、トヨタ自動車東日本という形になりました。

その中でもトヨタ自動車東日本になった時から、車両を作る工場として岩手工場、静岡にあります東富士工場、大衡工場の3つがございます。それから大和町に、今、ハイブリットのエンジンを作っている大和工場がございます。この4工場でいろいろな環境への取組みをしています。そういうところで新しい会社になったと同時に各工場での環境への取組みのいいところを各工場で共有していくことを目指して活動している状況となっております。この工場でも、安心して安全な工場、クルマ作りを目指して活動しておりますので、この後、皆さんにいろいろ見ていただいて御理解を深めていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【化学物質アドバイザーによる講演】

<化学物質アドバイザー>

化学物質アドバイザーの菊地と申します。私のほうからは化学物質に関して皆様に話題を提供させていただきます。

司会の三沢さんから化学物質アドバイザーの役割について丁寧に説明いただきましたので、この件については私から重複してお話しする必要はないところですが、皆様のお手持ちの資料の中にチラシ、A4カラー刷りのものがあるかと思います。化学物質アドバイザーについては、そこに詳しく載っておりますので、化学物質アドバイザーという者がいて、化学物質に関していろいろお手伝いをして皆様方の意思疎通の場が円滑に進むように手伝える者がいるということを知っていただけると大変ありがたいです。

では、化学物質についてお話を進めてまいります。化学物質の印象について皆様方、いろいろお持ちだと思えます。例えば中学、高校の教科書に出てくる構造式だったり、化学式だったり、又は化学物質の名前等、難しいというイメージをお持ちで、それに伴って、私たちの世界とは全く関係ないと思われる方々がたくさんいらっしゃると思えます。でもそういうわけではありませんという話を前段させていただきます。

実は化学物質は身近な存在です。ほとんど身の回りのもの全て化学物質からできています。例えばこのスライドに書いてある水、塩、砂糖ですが、水、塩、砂糖が化学物質なのかというと化学物質です。実は人も化学物質の集まりですし、床材もそうですし、机もイスも私が着ているものも、皆さん着ているものもそうですが、全て化学物質からできています。

今日は自動車をお作りの工場にお邪魔しておりますので、自動車に関するものをちょっと見てみたいと思えますが、例えばガソリン、軽油も当然のことながら、エンジンから出てくる排出ガス、すべて化学物質ですし、エンジンオイルも潤滑材もウインドウォッシャー液も化学物質です。

また、化学物質のイメージの中で人間が作り出したものしか化学物質でないと皆さん思われているのかも分かりませんが、実はそうではありません。もともと自然にある化学物質はたくさんあります。このスライドで見えますと、例えば火山から発生するガス、二酸化硫黄や硫化水素など、山に行って倒れられる方もいるガスがあります。

また、生物の毒というものもあります。ハチに刺されることもあるかと思えますし、まれにフグの毒にあたってしまうという方もいます。自然界で一番強い毒だと言われていて、テトロドキシンという毒です。ちょっと変わったところでは、皆様昨日お酒をお飲みになられたでしょうか。お酒を飲んだ後、体の中でお酒を分解する過程で出てくるアセトアルデヒド。ちょっと頭痛いときに頭の中や体の中をぐ

るぐると回っていますが、そういう症状の原因になるものも化学物質です。

化学物質について、用途、使われ方について、まとめたのがこの図ですが、今まで説明してこなかった分野でも、まだまだたくさんあります。

例えば食品類に入っているものもあれば、農薬、殺虫剤、肥料、後は洗剤や化粧品、また私たちが病気になった時に飲む医薬品、これも化学物質です。このように化学物質は生活に欠かせないものとして私たちの中で重要な役割を果たしています。

皆様のお手元にもあるように今回のリスクコミュニケーションに当たり、住民の方にアンケートを行っております。その中で人間や環境に対して有害性がある、毒性があるということを気にされている方が多いという結果がございました。

今までの話を少しまとめてみますと、化学物質には生活が便利になるという性質があります。しかしながら間違った使い方をすると、先ほど見ていただいたスライドのように悪い影響を及ぼす恐れがございます。

後半の話では化学物質の影響を考えていきたいのですが、その中で2つ重要な部分、正しく理解していただきたい部分なのですが、それが化学物質の有害性と環境リスクです。まずその前段として、化学物質が人の体にどうやって入ってくるのか確認してみたいと思います。

まず、生活する中で息を吸ったり吐いたりする。吸い込むことによって体の中に入る。次に、ものを普通に食べたり、飲んだりという、水だけではないですけども飲み込むということで体の中に入ります。最後はさわるといふこと。ふれるといたらいいでしょうか。意図的にさわるといふ場合もあれば、事故等で意図しないでふれてしまうとき。そういう場合でも化学物質は体の中に入ります。この経路、こういうふうに入るといふことを頭の中に置いていただきながら、化学物質の有害性と環境リスクについて御説明したいと思います。

まず有害性というのは、人や動植物に悪い影響を及ぼす「性質」です。例えばこの化学物質は体の中枢神経に作用して、頭をくらくらさせるという性質を持っているという「性質」のことです。一方、化学物質の環境リスクというのは、その悪い影響を及ぼす「可能性」のことです。この2つの関係と先ほどのどれだけ体に取り込むかという関係を説明すると、こういうことになります。環境リスクつまり悪い影響を及ぼす可能性が大きい、小さいというのは、どんな化学物質、どういう性質、どういう有害性を持った化学物質がどれだけ体の中に入ってくるか、これで決定されます。よく皆様方がお考えになるのは、有害性だと思えます。この物質はたいへん問題があり、影響が強く出るということだけを考えられている方がいますが、先ほども申し上げましたように化学物質を考えるときには、有害性の他に、こちらの悪い影響を及ぼす可能性、どれくらい入ってくるかということを考えなければならないというのが重要な部分です。

一つだけ例をあげて御説明します。ここに毒のあるキノコが2種類あります。強い毒をもったものと、弱い毒をもったものがそれぞれ1種類ずつあって2種類です。人間がこれらを見ただけでは悪い影響が体には出ません。なんらかの形で体に入り込まないと影響は出ません。強いキノコであっても、ちょっと触ったり、なでたり、端をかじったぐらいでは、おそらくそれほど大きい影響は出ない可能性が高い。でも弱い毒を持ったキノコでも、すごくおいしいキノコでどんどん摂ってしまうと毒をたくさん摂ったことになります。つまり体の中に有害性のあるものがたくさん入り込んできて、大変なことになってしまいます。

では化学物質を使用するときはどういうことを確認したらいいのかです。どんな化学物質でどんな性質があるのか、体に取り込む可能性はどうでしょう、取り込む量を減らしていくにはどうしたらいいでしょう。あとは環境中に出される可能性や使用後の廃棄方法はどうしたらいいだろう。いろいろな情報が必要になります。でも、こういう情報をどうやって入手したらいいのかは大変難しいことです。化学物質アドバイザーだったら分かるのではと言われるかも知れませんが、実は私も分からない部分がたくさんあります。

ではどうしたらいいかということですが、まず製品の品質表示をよく読んでいただくということが、一般的に家庭で使われているものについては、まずそこが重要です。おそらく、いつも使われているものだと、そんなに読まないでお使いになっているのかなと思います。この中にはどこの会社で作っているのかの他に、成分としてどういう化学物質が入っていて、使用するときにはどれくらいで使ったらいいのか。使用上はどういう注意をしたらいいのか。もし誤って飲んだ場合にはどういう処置をしたらいいのか等が詳しく書いてあります。まず品質表示を確認いただくというのがたいへん重要な部分です。今日は事業者の方がお聞きになっていらっしゃると思います。事業者の方はお分かりになっていると思いますが、御自分たちが使われている原材料等、商品や製品には必ずSDS、安全データシートが添付されているはず。これが添付されていなければ、納入先に要求してそれを確認していただく。そこが重要な部分です。ここには先ほど言った品質表示よりも大変詳しい情報が記載されています。これをよく読んでいただいて、御自分たちが使われているものがどういう化学物質で、どのようなリスクがあるのかについて確認いただくことが重要かと思います。住民の方に知っていただきたいのは、事業者は自分たちが使っているものについて、こういう情報を適切に入手した上で使っていることを理解いただければと思います。

では、化学物質とよい関係を保つということについて、まとめさせていただきますが、まず先ほど言いました製品の品質表示をよく読んで、使用上の注意を守って正しく使うということです。誤った使い方をすれば、目的以外の悪い影響だけが引き出されてしまう危険性があります。次に、無駄を省いて必要な量だけ使うということです。たくさん使えば、一層効果があると思われるかも知れませんが、実はそうではなくて、適切な量というのがあります。その量をきちっと守っていただく。あともう一つ。体に取り込む量をできる限り減らす。そういう努力をしていただく、配慮をしていただくということだと思います。例えば、皆さん御自分で塗料を塗るという場合、密閉された空間で作業する方はおそらくいないと思います。より換気のいい場所で行う、また化学物質がどういうふうに入り込むかということを考えていただくと分かりますが、手袋とかマスクを付けていただくこと、これを守っていただくということが重要だと思います。

このスライドの内容は住民の方に御説明している形を取っていますが、事業者の方自分たちのお仕事の中でもこれがそのまま当てはまることだと思います。

今日私がお話した内容は、皆様方にお配りしていますA5の小さな冊子「かんたん化学物質ガイド」が5種類ございます。この内容を使って説明をいたしました。どうか時間があるときに結構でございますのでもう一度見直していただくと理解が深まると思います。では私からは以上です。御清聴ありがとうございました。

【意見交換会】

<ファシリテーター>

終わりの時間が4時ということで、お帰りの時間の都合もあると思いますので、4時に終わらせたいと思います。

意見交換の時間は当初の予定では、地区代表の方に50分、オブザーバーの方に10分ということで考えていたのですが、非常に丁寧に工場の説明があり、わかりやすかったのですが、時間が足りなくなっています。例えば工場見学の中で、少し聞きとれなかったとか、やはりここをもう一度確認したいという質問、それから最初に化学物質アドバイザーの菊地さんのほうから化学物質とはということで説明があったと思います。もう少し詳しく聞いてみたいということでも、ぜひそういうところから意見を出していただきたいと思うのです。行政区長さんのほうで以前工場見学にも参加したけれども、今日参加してみて、このところが非常に良かったと、もう少し説明をしてもらいたいというようなところがありましたらどなたからでもお願いします。お名前をまずおっしゃって発言していただければと思います。

非常に柔らかく三沢さんも進行して下さっていたので、通常の意見交換会のような堅い雰囲気という状況ではありませんが、質問を出しやすくするためにお話しさせていただきます。今日は私、神奈川県から朝6時半に起きて来ました。トヨタ自動車東日本の工場で、初めてのリスクコミュニケーションをやっただけということで嬉しくなりました。東京駅の新幹線のホームでお土産を買ってきました。ただ人数とお菓子の割合が悪くて全員分はありません、甘いものをお好きじゃない方もいらっしゃるかもしれませんが、ぜひ召し上がってください。後40分位しかないので、お茶を取っていない方や、お菓子を食べようと思う方は質問の最中でも、回答を聞きながらでも、あのお茶のところに行って、食べてということで構いません。

どなたか行政区長さん、御質問はありませんでしょうか。いかがですか。

<地域住民代表 A行政区長 Aさん>

工場見学はA地区のみんなと一緒に1回見学して、今日で2回目になりました。車のできる状況というのはほんとにすばらしいトヨタの作り方、その結果今日あたりの新聞によりますとトヨタさんは何年ぶりの黒字経営になったということでおめでたいことだと、その一言はぜひ発言したいなと思って今日は出席しました。

それで、私は地元に住んでいるわけで、全般的に化学物質とかそういうのは良く分からないんですけども、最近のニュースでは中国からの排気ガス関係があるんですけども、そのものが、もう間もなく始まるスギ花粉と一緒にすると我々の体に大きな影響をもたらすというニュースがあります。

そこで、化学物質。このトヨタさんでは素晴らしい環境を考えた工場建設で、そこから出る廃棄物はほとんど問題はないという今説明で私は聞いたわけですけども、そういうすごい廃棄物が中国から流れてきて、蔵王の樹氷までも汚しているという状況の中に、トヨタさんの廃棄物が混ざってしまったら、ちゃんと検証できる状況があるのでしょうか。その辺をお聞きしたいと思います。

<ファシリテーター>

すごく大きなテーマと質問になりました。ここではですね、例えば1対1の対立の形ではなくて、工

場側からこういう状況で大丈夫だとか、こういう対策は取ってますよ等、折角同席されていますので、行政側の保健所の鈴木さんのほうからも何かあればお願いします。それから、最後に化学物質アドバイザーの菊地さんのほうからなかなか大きくて難しすぎるかと思いますが、よろしくをお願いします。まず、Aさんの御質問にどなたからお願いしましょうか。トヨタ自動車東日本の環境部長の鈴木さんからよろしいですか。

<トヨタ自動車東日本株式会社 宮城大衡工場>

なごやかによろしいでしょうか。(会場笑い)

はっきり言って、話が非常に大きいので、大気中に舞っているものの話なのでそういう部分は多分にあって、スギ花粉も1週間以内に飛び出すと。それと分けができるかとなると、正直言ってちょっと難しいと思います。我々の目にも見えないですしね。大気を取って分析するというそこまでの機能を我々は持っていないので、それを取って調査を依頼するということはできるとは思いますが、現時点ではそこまでやる機能がないのと、どこまで我々ができるかというのも考えていないというのが正直なところでございます。

<県(塩釜保健所)>

塩釜保健所の鈴木です。大陸からの大気汚染物質の輸送ですけれども、直接のお答えになるかどうかは分かりませんが、宮城県におきましても大気汚染のモニタリングというのをやっています。それでこの大陸間輸送の影響も懸念されるということで注視はしてるんですけども、今のところ影響はさほどなかろうということにはなってますけども、なかろうということは、若干はあるということなんですけども、正直申し上げますとね。大気汚染物質というのは皆さん御承知のとおり、移動するんですね。移動するときにはですね、拡散して均一になって来るわけじゃなくて、3.11の時の放射線と同様にプルーム、雲になって移動して来るんですね。ある時間帯は濃いけれども、大概の時間は基準値以内だということがございますので、何とも言いようがないと・・・。

<ファシリテーター>

なかなか回答がしにくいことですが、アドバイザーさんお願いします。

<化学物質アドバイザー>

先ほど樹氷の話がされましたけれども、私は山形市に住んでおります。山越えて反対側です。樹氷の話ですが、樹氷も今温暖化でだんだん小さくなってきていて、おそらく数十年先はなくなると言われていた状態です。いろいろ樹氷には大陸から運ばれてきたものがそのまま、雪に付着しておりますので、それを分析されている大学の先生方もいらっしゃいます。

今回の中国のPM2.5等の大気汚染の話ですけども、まず日本においては痛ましいいろいろな問題が発生して、それに対して行政の方、事業者の方、住民の方、皆さん一緒になって、対策に取り組んできたこともあって、日本だけを考えた時の大気汚染については、以前に比べたら相当改善されてきています。今回の中国の汚染物質は越境してくるわけですが、報道で御存知のように大気シミュレーション画面で濃度を確認できる環境省のサイトがありますが、それで見ただけであれば分るとおり、今、西日本の

ほうにはかなり入ってきているようです。このサイトで確認しようにもなかなかつながらない状態ですがチャンスを見つけて、パソコンの環境がある方は見ていただければと思います。

また、宮城の大衡までそれが来るかですが、明確には言えません。ただ私が知る限りにおいては、山形では今年の春ごろ、やはり中国とは言い切れないわけですが、日本の西、大陸のほうからやってくるものが影響して、大気のモニタリング（数値）が高くなったという話を聞いています。ただ、ひと山を越えてどうなるというのは分からない部分があります。

さらに、先ほどスギ花粉の話がありましたけれど、俗に言われているのが、スギ花粉によるアレルギー症状がひどい方は、他の化学物質と一緒にするとより影響が出やすくなるという話も聞いたことがあります。ただ、今回のPM2.5については分かりません。

特にこのトヨタさんから出てくるものが皆さんのところにどういう影響を与えるかということについては、これまでお話したようにこちらの事業所だけの問題ではなくて、こちらの事業所の周りの他の事業所からも化学物質は出されています。したがって、地域全体として捉えると言うことが一番重要なことだと思えます。

<ファシリテーター>

よろしいでしょうか。

他の区長さん、どなたか御質問ありませんか。

あまりに丁寧な説明と分かりやすい説明でしたので・・・、はい、どうぞ。

<地域住民代表 A行政区長 Aさん>

もう一つ水の問題で。私たち農家の者が多いですけども、私も農家で米作りしてるんですけど、さっき昔の話、奥州街道の話も出たんですけども、そのことについてもいろいろ話してみたいなと思ってるんですけども。

ここに降った雨水は下水道に流すのは田んぼに行かないから、心配ないと思うんですけども、雨水は、昔は奥州街道があったころは山だったわけですよ。御存知のとおり、このまっ平らな工場用地にする前は、山で我々はここで山菜取りとかいろいろ山で遊んだわけですけども、そこに降った雨と、まっ平らな工場に降った雨とは、雨水でもその流れていった雨水は3か所に集めて、流されるという形になっているわけですけども、そこに降った雨の処理は、さっきの話のようにちゃんと万全に、油なんかこぼれたりした時はきちんと処理しているということなんですけど。お願いなんですけどね、そういう雨水が我々の田んぼに行っても心配ないような形で対応していただければというお願いでございます。

<ファシリテーター>

雨水のポカヨケ^{*1}ですか、その監視システムについて質問ですね。その監視で見つかった時の対応等お願いします。現在までのところではないと思いますが、対応等教えていただきたいと思うのですが。

<トヨタ自動車東日本株式会社 宮城大衡工場>

先ほど少し御説明しましたが、ポカヨケまで来てしまう前にですね、ポカヨケに行く前に抑えると

ということが大事かと思えます。昨年うちの事例を申しあげますと、昨年の冬ですね、降雪によって弊社の敷地内を除雪車で除雪をしていただくんですけど、その除雪車から油が漏れまして、工場の中に一部油がこぼれてしまったということがありました。そういう情報がありまして、我々一つは吸着マット、それがですね、保安のほうから情報がありまして、環境管理をしてる部署に連絡がすぐ来ます。もう発見してから情報がすぐという形でホットラインが工場内にできていると。我々はそれを受けて吸着マットと中和剤をもって場所に駆けつけて処理をします。処理をしながら、なおかつ原因を特定しなければいけませんので、そっちのほうも突き詰めていくという形です。

それから、我々工場の中では予期していない部分もありますので、そういった部分では関連の企業様を交えて、うちだけの話ではありませんので、公道を走ってくるわけですので、点検をしっかりとやっていただくといった点検シートに落とし込んでいただいたり、我々そういった活動もしております。

ですから、中の緊急体制という部分ではそういうシステムにしていますので、いかにポカヨケまで流さないかということが大事だと思っております。

<ファシリテーター>

ありがとうございます。他の方がいかがでしょうか。

十分に納得されたというか、信頼関係があるので大丈夫ということなのでしょうか。

では、化学物質アドバイザーの菊地さんのほうから環境の化学物質管理のところの説明がありましたよね。あれは化学物質管理の法律があると思うのですが、その中で一つ一つの物質ということではなくて、どういう信頼性や、何かを確保できるものかちょっと説明をしていただけたらと思うんですけど。

<化学物質アドバイザー>

日本においては、化学物質がどういうところから、どのくらい環境中に出されているか、あとは廃棄物とか下水道、こちらの事業所の場合は下水道なので、下水道を通じて事業所の外に運び出されたかというデータを把握して、国で集計して公表する仕組みがございます。名称が日本語で言うと化学物質排出・移動量届出制度と言います。英語の頭文字で言う「P R T R」という制度です。化学物質は種々の経路で、事業所外に運び出されます。ただ、ガソリンは移動に必要な燃料として事業所外に出ていきますが、それ以外の塗料だったり、表面処理剤だったり、防錆の塗料については製品に付着するもの以外、全て事業所が管理された状況下で他の処理工程に進むということになっています。

それで、その中で取扱量が1トン（1000キログラム）以上の化学物質については、先ほど申し上げましたように、県を通じて国に届け出る、そしてそのときは、どういう経路で外に出しましたと、合わせて報告をする形となっています。

この報告値というのは、行政の方にお聞きすれば見ることができますし、パソコンをお持ちの方であれば、こちらの事業所では、例えば平成22年度の化学物質がどれだけ、どういう経路で、事業所外に排出・移動されたかというのを見ることができます。

事業者の報告というのは公表するだけです。次の年、これだけ減らしなさいとか、報告値をずっと維持しなさいとか、そういうような義務は一切ありません。ただ、どういう経路で、どこに出したかということが公表されますので、他の事業所の報告値もすべて見ることができますので、自主的に化学物質の排出量の管理を始めて、ここは無駄が多いな、もう少し減らそうと気付いたり、先ほど事業所からお

話がありました自主的な作業手順改善，塗料をのせるときに機械を遠くからではなく，近づけるという
ような改善にもつながっていきます。そういうような部分で自主的な管理を促進して，管理の改善が進
むということを期待した仕組みになっています。このP R T Rという制度は，事業所の方だけに負担を
かけるものではなくて，行政の方々から考えますと，化学物質に関するデータが報告されてきますので，
環境の政策に活かしていただくことができますし，住民の方々に対しても化学物質への関心というもの
を，今以上に持っていただいて，理解を深めていただいて，積極的に事業所や行政の方々と一緒になっ
て，化学物質の管理に努力いただく制度になっています。今行っているリスクコミュニケーション，質
疑応答の中でいろいろ情報を共有していただくということが，全体的な化学物質の管理を促進して，
削減するというような部分でつながっていくというような制度になります。

<ファシリテーター>

ありがとうございました。

こういうデータを，届出制度できちっととされていて，削減もちゃんと把握されている。削減率も把握
されている。3割削減しましたよ，というようなことを聞けば答えていただけるということが信頼にも
つながりますし，削減にもつながるとのことだと思います。

他の方でいらっしゃいませんか。はい，Bさんどうぞ。

<地域住民代表 B行政区長 Bさん>

セントラル^{※2}さんで化学物質の量はどれくらい，詳しく先ほど説明いただいたんですけども，1トン
とか10トンとか100トンとかどれくらいになりますか。素人に分かる内容で教えていただければありが
たいです。

<ファシリテーター>

どういふものを多く扱っているという事でよろしいですか。

<地域住民代表 B行政区長 Bさん>

いや，総体でいいです。取扱量で。

<トヨタ自動車東日本株式会社 宮城大衡工場>

取扱量でよろしいですか。年間で170トンです。

<地域住民代表 B行政区長 Bさん>

ありやあ・・・。

<ファシリテーター>

Bさん，よろしいですか。

<地域住民代表 B行政区長 Bさん>

いいです。

<ファシリテーター>

先ほどから、メモされていたCさん。なにか御質問ありますか。

<地域住民代表 C行政区長 Cさん>

特に質問ということでもないんですけども、工場からですね、ダクトというんですか。蒸気が出ていますけども、あれの外気温に与える影響ってあるんですかね。この近くにアメダス（の観測点）があるんですけども、その観測に影響を与えるほどのものがあるのかと思ったものですから。

<トヨタ自動車東日本株式会社 宮城大衡工場>

直接的には2キロメートルも離れていますと、影響はないと思います。蒸気を例えばコジェネ（コジェネレーション）がありますけど、大量に出すのと、我々再利用して工場内で使っております。蒸気の熱はこちらに使っているわけですから、100パーセント出すのと、その10パーセントを出すのでは、放出する量が違うので、そういう意味では低減は図れていますので、そこに直接影響するとは思っておりません。

<地域住民代表 C行政区長 Cさん>

ありがとうございます。実は、たまたま天気予報で発表する気温がですね、以前はいつもこの地域ですと最低気温が表れる場所が大衡だったんですよ。この北のほうに古川大崎があるんですけど、ここ2、3年はそこのほうが低いんですね。ですから、この工場の関係で低くなっているのかなと思ったものですから。

<トヨタ自動車東日本株式会社 宮城大衡工場>

実は私古川に住んでいて、どっちが寒いかなと思って、こちらのほうが風が強いものですからこちらのほうが寒いと思ってたんですが。

<地域住民代表 C行政区長 Cさん>

何年か前までは、大衡のほうが最低気温を観測する日が多かったですよね。最近古川大崎のほうが最低気温を出すのが多いものですから。なんか影響でもあるのかなと思って。操業されてからそういうものですから、聞いた次第です。

<ファシリテーター>

工場側から何か回答はありますか。

影響については分からないとは思いますが、こういう意見交換がやっぱり重要だと思います。日ごろからコミュニケーションを取っていると、ちょっと今までと違ったことっていうのを聞く事もできるかと思います。Dさんはいかがですか。

<地域住民代表 D行政区長 Dさん>

D行政区の Dです。目で見える化学物質，臭いで分かる化学物質，というものはすぐ感じる事ができるんですけど，それ以外に目にも見えない，臭いもない，というようなものが大気にあるものと含めてですね，この工場から出ているのかどうか，その辺ちょっとお聞きしたいと思います。

<ファシリテーター>

トヨタ自動車東日本の方へお願いします。

例えば先ほどの登録制度の中にある物質と，登録で出さなくていいものも把握されていると思うのですが，そういうものの中に今質問があったようなものがあるのか，ないのかだけでもよろしいと思うのでよろしくをお願いします。

<トヨタ自動車東日本株式会社 宮城大衡工場>

逆に先生にお聞きしたいのですが，この中で，どれが臭いがある，あるいはきついというのがお分かりになりますでしょうか。

<化学物質アドバイザー>

こちらの事業所において，大気中に出されるものに，どのような化学物質があるかというところからまずお話ししたいと思います，塗料に含まれるスチレン，1,3,5-トリメチルベンゼン，N,N-ジアセチルアセトアミド，ナフタレン，ホルムアルデヒド，1,2,4-トリメチルベンゼン，キシレン，トルエン，エチルベンゼン，n-ヘキサン，ベンゼンです。スライドに記載された4物質以外は，先ほど言ったP R T Rの情報によると大気に全部出ていきます。

何が臭いがするかという質問ですけど，例えばトルエンですが，ペンキを塗るときに使うシンナーとかに入っていますので臭いがするというのはおそらくお分かりだと思います。先ほど来から丁寧な御説明がありますが，ガソリンについては車と一緒に移動しますが，塗料については，エアシャワーを抜けて，漏れ出てきたものが処理されずに外に出ていくわけです。どの化学物質が臭うかの特定は，今はデータがないので私のほうからは申し上げられません。何が一番多い成分なのか，何と何の組み合わせなのかということについては，排出口で測定した結果，化学物質の濃度が一番高いのでたぶんこれですよね，というような捉え方が必要です。先ほど大気汚染防止法の説明で，V O Cという塗料等の中に含まれている揮発性有機化合物の規制というのは，全体である濃度を超えないでください，という規制の仕方をしていきますので，おそらく事業者様でも，まだお調べになっていない部分なのかなと思います。

臭わないで害があるもの，有害性があることについては，先ほど私がお話しましたが，化学物質の中で有害性がないというものはありませんので，この情報だけでは御説明しにくい部分があります。

<ファシリテーター>

化学物質そのものでいえば，臭いがなくても害があるものはあるけれども，工場では排出を制限したり，管理したりする中で，外には出さないようにしているのでというような受け止め方を私はしました。回答ではありませんが，今までの流れの中でそのように感じましたが，そういうことでよろしいでしょうか。

<地域住民代表 D行政区長 Dさん>

はい。分かりました。

<ファシリテーター>

他に、後ろの方で顔が見えない方がいるのですが、Eさんですかね。はい、どうぞ。

<地域住民代表 E行政区長 Eさん>

私のほうからですね、検査の箇所を増やしていただきたい。特に水質。私のところはEという地区なんですけど、どこからも水源がないわけで、それで各農家はため池を作っておいて、ため池に雨水をためて、それで農業用水に使っているということで、そのトヨタさんの東の門から入ってくる場所の防災用のため池が、あそこが地下水が流れていると。それが各ため池に浸透してきて、そこで蓄積されているとなると農業用水は非常に大変なことになりますので、水質検査の箇所を、私の地区にもため池がありますので、その辺の検査をよろしくお願ひしたいと思ひます。

<ファシリテーター>

要望ということでよろしいでしょうか。

<地域住民代表 E行政区長 Eさん>

そして今は、爆弾低気圧とかですね、そういう集中豪雨があるわけですよ。それで浸透する山も何もありませんので、すぐ流れるわけですよ。漏れた油もですね。拭き取る暇もなく流れるわけですよ。万が一、漏れた水は浄化しているということですけども、そこに浄化されないまま、万が一流れた場合には、我々のため池に入るわけですから、それが全部農業用水に使われております。ですから、水質の検査もE地区のため池のほうも、検査していただきたい。

<ファシリテーター>

それは、工場側への御要望ということでよろしいでしょうか。やはり地域に根差した、持続可能な企業ということでぜひ対話を続けながら、新たに始めるようなことがありましたら、また、きちんとお伝えして、ということでトヨタ自動車東日本の方よろしくお願ひします。

それでは時間も無くなってきました。傍聴の方からも御質問なり、御意見をお伺ひしたいと思ひますが、いかがでしょうか。傍聴の方は特にはよろしいですか。はい、どうぞ。

<地域住民傍聴者>

Fと言ひます。

私が一番この大衡工場から地域で近いところに住んでいる者でございます。まあいろいろAさん、それからEさんからも話があったわけですけども、今まで説明を聞いてきて、説明がされていない点があったんじゃないかと私考えて、それは地下に浸透する水のことについてぜんぜん説明されていないんじゃないかというように思ひております。

それは雨の場合は防災ため池に流れる、下水は下水管に流れる、地下に浸透する水もあるんじゃないかというように思っております。それはここを造成するときは、さっきAさんが話したように山を造成したと。それぞれの沢で暗渠が設置されているということで、常時水が出ている。それを農業用水に利用している。そしてまたこの大衡に住んでいる我々は、今はほとんど飲料水として利用している方はないかと思えますけども、なかには1軒や2軒はあるんじゃないかと思えますし、それに井戸水というのは我々農家、米作りについては水道に移行してしましても非常に大事な水源でございます。稲の苗や野菜の苗なんかを育てるときの水の補給、その他あまり飲料水に関係ない水については、井戸水を利用しているというようなことございまして、現在はそういうような傾向はないと思えますけれども、今後御工場が何十年、何百年この地において操業するということになりましたら、有害物質がそういう地下水に流れ込む可能性はあるんじゃないかと私は推察をしているものでございます。

それで御工場として地下に浸透する水については、どのようにお考えを持っているのか、まず御質問させていただきたいと思えます。

<トヨタ自動車東日本株式会社 宮城大衡工場>

御指摘のとおり、今日の説明の中では漏れておりました。実はこの工場を建てさせていただくときに、敷地内に6か所観測井戸というものを設けてございます。その水質を行政の方も交えながら、定期的に測定していきましようというところで、1年に1回その観測井戸の水質を測定してございます。その中で、影響があるものが検出されたということは今までございません。そこまで先ほどお話があったとおり弊社始まって、2年、3年というところでございますので、もちろんここに至るまでは影響が出ていないということがございますので長い目で見ていってそういう形でも、観測井戸での観測というものを継続していきたいと思えます。

<ファシリテーター>

Fさん、今の回答でよろしいですか。

<地域傍聴者>

今、御回答いただいたので今後、我々子子孫孫といえますか、百年、それ以上も我々も子孫も農業を続けていくであろうと思えますので、一つそれらのことにも少し考えを組み入れていただければというふうに思います。よろしく願いを申し上げます。

<ファシリテーター>

もう終わりの時間があと数分に迫ってまいりました。私のほうから三沢さんのほうにマイクを戻したいと思うのですが、私は、今、非常に地域に根差した企業として、対話が初めて行われたということで、日ごろ疑問に思っていたらっしゃる地域住民の方の思いや考えが特に伝わったと思ひ、すごくいい会だったと私は思っています。ぜひ、これからもこういうことが継続して行われたらいいなと思ひます。ありがとうございました。

【閉会のあいさつ】

○トヨタ自動車東日本株式会社宮城大衡工場 工務部 鈴木部長

本日は本当に長時間ありがとうございました。貴重な時間ですね、当工場に足を運んでいただき、またいろんな御意見をいただきました。非常に参考になりました。普段我々が考えていない、思っていないことや御意見をお聞かせいただき、非常に助かりました。特に雨の話がありました。例えば、ゲリラ豪雨、最近気象が変わってきて、変化しています。では、当工場はどれだけの雨に瞬間的に耐えられるのだろうかということも、やっぱり確認しておかなくてはいけないのかなというように思います。そういったところも含めて、今後ますます取組みを強くしていきたいと思えます。

長くなってしまうかもしれませんが、最初になかなか強烈な難しい質問があったように、大気の話がありまして、ちょっと考えていたんですけど、人間の意識の問題というんですかね、日本という国はやはり高度成長で大気汚染と付き合っていた、川や海も汚れてそういうところを経験して反省を活かして、こういう取組みを活かして、いまやどの川に行っても透き通っている。やはり私も仕事から海外に行って東南アジアとか中国とか、真っ黒な川やその傍で生活している。臭いはやはり化学物質の臭いがどこでもしているというところがまだあって、中国の曇った空は非常に強烈だと思います。あそこでマラソンなんかはとともする気がしないという方がいっぱいいらっしゃるって、そういう状況なんで、逆に彼らが今そういう状況に陥っていて、環境対策をやらなくちゃいけない。最終的には根源を断たなくてはならないというように思えますね。そういったところで我々は先進国でもある、日本全体がそういうようにやっている。その中でもこのトヨタ自動車東日本がさらにやはり新しく取組み、新しい試みをやっているって先を行けたらなあという意気込みでこれからの環境対策に取り組んでいこうと思えます。

本日は本当にありがとうございました。

(注釈)

※1 ポカ(事故)を避ける装置

※2 平成24年7月1日に、関東自動車工業株式会社、セントラル自動車株式会社、トヨタ自動車東北株式会社が合併し、トヨタ自動車東日本株式会社が発足した。

このうち、セントラル自動車株式会社本社工場がトヨタ自動車東日本株式会社宮城大衡工場の前身となっている。